

KORG Collection

miniKORG700s



取扱説明書

J1

目次

はじめに.....	4	クイック・スタート.....	12
miniKORG 700Sの特長.....	4	シンセを鳴らす.....	12
各部の名称と機能.....	5	シンセの音色をエディットする.....	13
ヘッダー.....	6	アルペジエーターを使う.....	13
シンセサイザー部.....	6	音色を保存する.....	13
エフェクター部.....	7	パラメーター・ガイド.....	14
基本操作.....	8	MAIN.....	14
キーボード.....	8	フロント・パネル.....	14
ジョイスティック.....	8	トップ・パネル.....	17
ロータリー・スイッチ.....	8	VCO2.....	17
バリュースライダー.....	8	V.PATCH.....	18
チェックボックス.....	9	Virtual Patch.....	19
トグル・スイッチ.....	9	LFO.....	19
メニュー・ボタン.....	9	EG.....	19
ノブ.....	9	EFFECT.....	20
グラフィカル・エンベロープ.....	9	DISTORTION.....	21
ブラウザ機能.....	10	EQ.....	22
Banks.....	11	CHORUS/FLANGER/ENSEMBLE.....	23
Categories.....	11	PHASER.....	24
Programs.....	11	DELAY.....	25
Search.....	11	REVERB.....	26
Previews.....	11		

3D⇔2D	27
ツール	28
SAVEボタン, SAVE AS...ボタン	28
・ ・ ・ (Hamburger)メニュー	28
⚙️(グローバル)ボタン.....	29
Modulation Source List	32
付録	33
故障とお思いになる前に	33
音が出ない.....	33
音がとぎれる/ノイズが出る.....	33
音が遅れる	33
コンピューターに接続しているMIDIデバイスでコントロールできない	34
仕様	35
動作環境	35
for Mac	35
for Windows	35
サポート・サービスのご案内	36
ご連絡の際に必要な情報	36
ご連絡の前に.....	36
お客様相談窓口.....	36

・すべての製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

はじめに

このたびは、コルグ・ソフトウェア・シンセサイザー KORG Collection - miniKORG 700Sをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。本製品を末永くご愛用いただくためにも、この取扱説明書をよくお読みになって正しい方法でご使用ください。

miniKORG 700Sの特長

1973年にコルグが初めて量産し販売したモノフォニック・シンセサイザー miniKORG 700。その翌74年に発売された改良版「miniKORG 700S」をコルグの誇るモデリング・テクノロジー CMTでソフトウェア・シンセサイザーとして再現。開発エンジニアが細部までこだわり調整を行いました。

miniKORG 700Sが持っている音の太さ、抜けの良さ、過激な音色変化を再現しながらも、現代の音楽制作に必要な数々の改良を施しています。オリジナルではありえないポリフォニック化、V.Patch (バーチャル・パッチ) とEG、LFOを各3系統、高品質なエフェクトを搭載。ハードウェアの制約を外したソフトウェアならではの音色を作成することが可能です。また、ユーザー・インターフェースにもこだわり、オリジナル700Sを忠実に再現した3Dモード、音色エディットなどで使いやすさを重視した2Dモードの2種類用意。700Sの美しいリードと太いベース・サウンドはもちろん、新機能を使った自由度の高い新しいサウンドをお楽しみください。

各部の名称と機能



ヘッダー

1. Saveボタン

選択中のプログラムを上書き保存します。

2. Save as...ボタン

選択中のプログラムを別名保存します。

3. ディスプレイ

現在選択中の音色名が表示されます。ディスプレイをタップするとプログラム・ブラウザが表示します。またカテゴリーを指定することで、プログラムを素早く選ぶことが可能です。

4. PAGE SELECTスイッチ

表示するページを選択します。

MAIN: [MAIN](#)ページを表示します。

V.PATCH: [V.PATCH](#)ページを表示します。

EFFECT: [EFFECT](#)ページを表示します。

5. PANノブ

miniKORG700sの出力の定位を設定します。

6. VOLUMEノブ


miniKORG700sの音量を調節します。

7. レベルメーター

8. . . . (Hamburger)メニュー

プログラムの初期化やコントローラー設定の呼び出し、保存などを行います。(→28ページ「. . . (Hamburger)メニュー」)

9. (グローバル)ボタン

コントローラーのアサイン設定やスケールの設定、鍵盤の設定などを行います(→29ページ「 (グローバル)ボタン」)。

シンセサイザー部

10. miniKORG

a. トップ・パネル

(→17ページ「トップ・パネル」)

b. 鍵盤、ジョイスティック

画面上の演奏で使用するコントローラー (キーボード、ジョイスティック)です。外部MIDI機器から、これらコントローラーを操作する場合には、GLOBALでMIDIコントロール・ナンバーを設定すると便利です。

c. フロント・パネル

(→14ページ「フロント・パネル」)

エフェクター部

11.エフェクター

3タイプの歪みが選べるディストーション、低音、中音、高音のレベルを増減するEQ、音、ピッチを揺らした信号と、原音と混ぜ合わせることで音にうねりや広がり、ビブラート感を与えるCHORUS/FLANGER/ENSEMBLE、位相を周期的に変化させた音を原音に混ぜ合わせることによって、音にうねりを与えるPHASER、音を時間的に遅らせて聞こえるようにするディレイ、反響音を加えて残響や臨場感をシミュレートするリバーブを搭載しています。(→20ページ「EFFECT」)

基本操作

各コントローラーやパラメーターはマウスを使って値を変えることができます。

キーボード

- ・ 鍵盤をクリックしてノートを発音します。

ジョイスティック



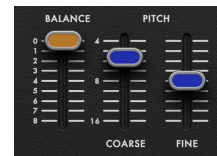
- ・ 上下左右にドラッグしてコントロールします。

ロータリー・スイッチ



- ・ ドラッグして値を選択します。
- ・ ALT (mac: Option) キーを押しながらクリックするとパラメーターが持つ初期値に戻ります。

バリュー・スライダー



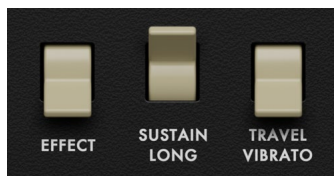
- ・ バリュー部分を上下にドラッグして値を調節します。
- ・ ダブルクリックして、値をキーボードから入力できます。
- ・ ALT (mac: Option) キーを押しながらクリックするとパラメーターが持つ初期値に戻ります。

チェックボックス



- クリックするたびに設定(on/off)が切り替わります。

トグル・スイッチ



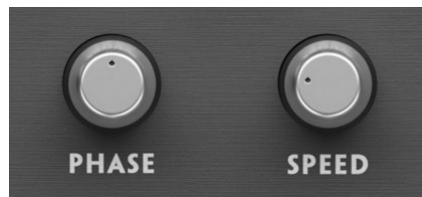
- クリックするたびにオン/オフが切り替わります。

メニュー・ボタン



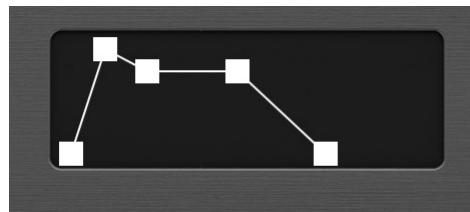
- クリックすると、ポップアップ・メニューが表示され、コマンドを選びます。

ノブ



- ドラッグして値を調節します。
- ALT (mac: Option) キーを押しながらクリックするとパラメーターが持つ初期値に戻ります。

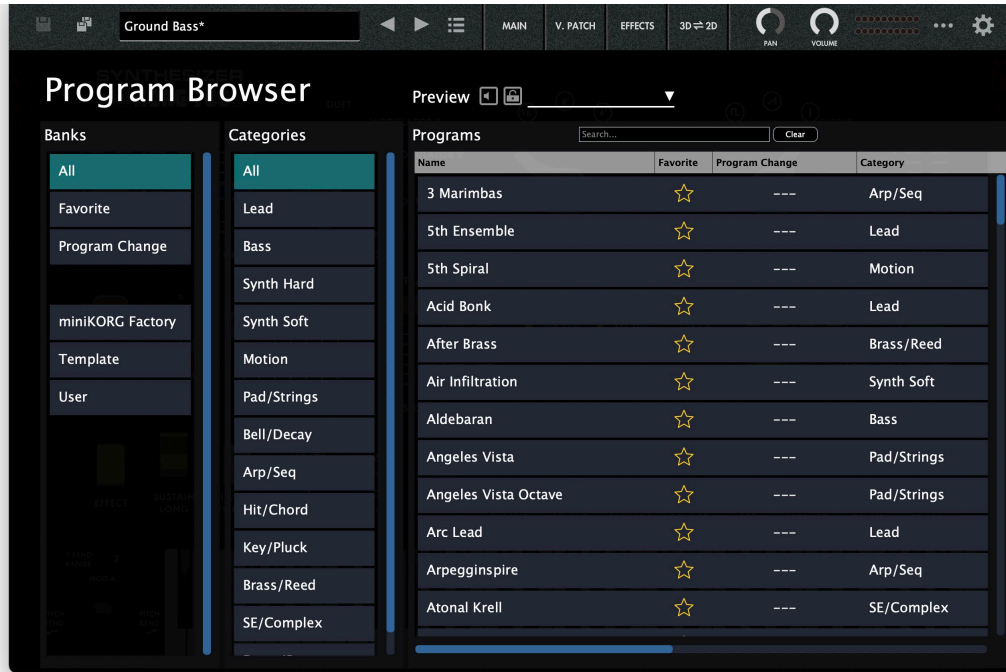
グラフィカル・エンベロープ



- 各ポイントをドラッグして値(レベルやタイム)を調節します。

ブラウザ機能

miniKORG700Sソフトウェアでは、膨大な量の音色から必要なサウンドを素早く探し出せるように、カテゴリーでフィルタリングできるブラウザ検索機能を内蔵しています。



Banks

All

すべてのプログラムを表示します。

Favorite

ブラウザでFavoriteに追加したプログラムのみ表示します。プログラムを追加するにはProgramsタブにある "☆" を選択するか、右クリックメニューから行なってください。

Program Change

Program Change メッセージにて切り替えを行いたいプログラムを表示します。プログラムを追加するにはProgramsタブの右クリックメニューから行なってください。

Factory

ファクトリー・プログラムを表示します。ファクトリー・プログラムは上書きできません。

Template

プログラム作成時に役立つテンプレートを表示します。テンプレート・プログラムは上書きできません。

User

保存したプログラムを表示します。ユーザー・プログラムは以下のフォルダに保存されます。

[macOS]

~/Documents/KORG/KC_miniKORG/Presets/User

[Windows]

~/Documents/KORG/KC_miniKORG/Presets/User

Categories

選択したBankからプログラムを絞り込みたい時に使用します。カテゴリーに登録されているプログラムのみをProgramsに表示します。

Programs

演奏したいプログラムを選択します。また、FavoriteやProgram Changeの登録やプログラムの情報を編集することが可能です。

右クリックをすることで、プリセット・プログラムをFavoriteやProgram Changeに追加できます。また、ユーザー・プログラムの場合は情報の編集も行えます。

Search

プログラムを文字入力で検索することができます。

Previews

プログラム選択時に役立つフレーズ・プレビューを再生します。パターンを選択することも可能です。

クイック・スタート

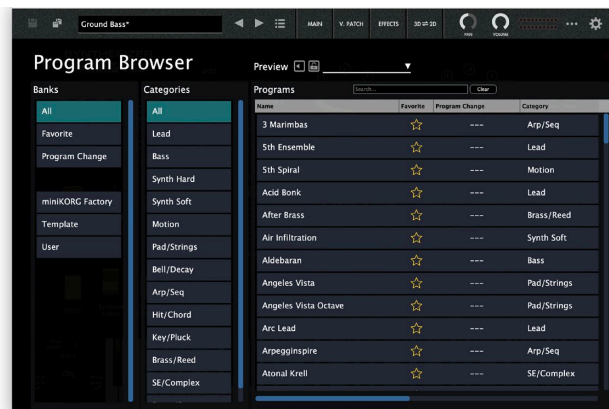
シンセを鳴らす

1. MODE SELECTスイッチでMAINをクリックし、MAIN画面を表示します。



画面上のキーボードや外部MIDIキーボードなどを使って、miniKORG700Sソフトウェアの音を鳴らしてみましょう。

2. ディスプレイのプログラム名をクリックし、ブラウザー画面を開きます。



3. リストから目的のプログラムを選択します。

Previewボタンをオンにすると、選んだプログラムの音色でパターン・フレーズが演奏されます。

リストで選んだプログラム名をダブルクリックすると、プログラムが選択され、MAINページに戻ります。

シンセの音色をエディットする

miniKORG700Sソフトウェアの音色をエディットしてみましょう。

トラベラー・コントロール(TRAVELER)の使い方

トラベラーとは、倍音の含み具合をコントロールする一種のトーン・コントローラーです。上側のスライダーは、スライダーの位置から高い倍音をカットし、下側のスライダーは、スライダーの位置から低い倍音をカットするように設計されており、組み合わせて使うことで上下のスライダーの間にある倍音が強調された音色になります。

TIP 演奏中に細かく左右に動かすとトレモロ効果、大きく動かすと音がうねり、打鍵にタイミングを合わせて動作させると、ワウやミュートの効果が得られます。

アタック・コントロールとパーカッション(ATTACK/SLOW, PERC/SINGING)

アタック・コントロールはスライダーによって音の立ち上がり時間を調節します。また、パーカッション/シンギング・コントロールはスライダーによって発音後の減衰を調節します。



アルペジエーターを使う

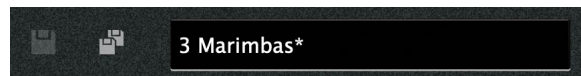
本機はアルペジエーター機能を搭載しています。アルペジエーターは以下の手順で設定します。

1. フロント・パネルのARPスイッチをオンに動かします。
2. ARPEGGIATOR MODEで、アルペジエーターのタイプを選びます。
 - アルペジエーターのタイプ
 - UP: 押さえた鍵盤の低い方から高い方に向かって繰り返します。
 - DOWN: 押さえた鍵盤の高い方から低い方に向かって繰り返します。
 - ALT1: 押さえた鍵盤の低い方から高い方まで行って戻ります。
 - ALT2: ALT1の両端が2度発音されます。
 - RANDOM: 押さえた鍵盤をランダムな順番で発音します。
 - SINGLE: 最後に押さえた鍵盤を連打します(オリジナルと同じ仕様)。
 - MANUAL: 鍵盤を押さえた順番で繰り返します。
3. ARPEGGIATOR RANGEで、アルペジエーターの発音範囲を選びます。

音色を保存する

作成した音色を保存して、いつでも呼び出せるようにしましょう。

1. ヘッダーにあるSave Asボタンを押します。



2. 表示されるダイアログで、音色名を編集します。
プログラム名を入力してください。タグを変更できません。
3. 保存するフォルダ(ディレクトリ)を選択します。
4. 最後にダイアログ内のSaveボタンを押します。

パラメーター・ガイド

MAIN



フロント・パネル

1. VOLUMEスライダー

全体の音量を調節します。

- ▲ フロント・パネル上のスイッチは下に動かすとオン、スライダーは下に動かすと効果が大きくなります。

2. TRAVELERスライダー

2つのスライダーの組み合わせにより、好みの音色を作ることができます。上側がローパス・フィルター、下側がハイパス・フィルターになります。鍵盤を押さえながら左右に動かすことにより、ワウ、ミュートのほかオリジナルなトラベリング・サウンドを作り出すことができます。

3. ATTACK/SLOWスライダー

音の立ち上がり時間を調節します。鋭い立ち上がりの音から緩やかな音まで自由にコントロールできます。

4. PERCUSSION/SINGINGスライダー

発音後の減衰を調節します。パーカッシブな音からオルガンのように伸びる音まで連続で変化します。

5. SCALEセレクトター

5オクターブの音域をワンタッチで切り替えます。

6. VOICESボタン



VOICE MODE: 発音の仕方を設定します。

MONO: モノフォニックで発音します。

LEGATO: モノフォニックで発音します。鍵盤を押したまま、2 回目以降の打鍵時にEG をリトリガーしません。

POLY: ポリフォニックで発音します。

VOICES: 最大同時発音数を設定します。

ANALOG: ノート・オンの度にオシレーターのパッチとフィルターのカットオフ周波数をランダムに変化させます。

UNISON: ポリフォニック時のユニゾンでの発音数を設定します。

note ポリフォニック時の最大同時発音数は、“VOICES TOTAL” と “VOICES UNISON” の設定 に依存します。実際の最大同時発音数は “VOICES TOTAL” を “VOICES UNISON” で割った値になります。

DETUNE: “UNISON” を複数の音に設定してユニゾンで発音させたときに、同時に発音する音をデチューン(音程をずらす)させます。

SPREAD: “UNISON” を設定してユニゾンで発音させたときに、各ボイスの出力をLチャンネルとRチャンネルに振り分けます。“UNISON” の設定が奇数の場合は、1ボイスだけはセンターに定位します。

PITCH BEND RANGE: ジョイスティックや、コンピューターに接続したMIDIデバイスのピッチ・ベンダーを操作したときのピッチの変化量を設定します。ここでは、ピッチ・ベンダーを＋方向へ最大にしたときのピッチの変化量を設定します。

7. MODEセレクター

オシレーター (VCO1)の基本波形を切り替えます。

三角波: 倍音が少なく、丸い音色の基本的な波形です。

矩形波: 電子音や管楽器の音色に適した波形です。

ノコギリ波: 倍音を多く含み、様々な楽器音に適した波形です。

CHORUS I: パルス・ウィズ・モジュレーションで、音が重なりあったような効果を得られる音色です。

CHORUS II: CHORUS Iより速いLFOで、強いコーラス効果を得られる音色です。

8. EXPANDスイッチ

発音時、トラベラーのカットオフ周波数に変化が加わるようになります。ATTACK/SLOWスライダーならびにPERCUSSION/SINGINGスライダーの設定によって、時間の経過とともに音色が変化します。

9. BRIGHTスイッチ

レゾナンス・レベルが上がります。トラベラーのカットオフ周波数付近の倍音を強調し、音が明るくなります。

10. SUSTAINスイッチ

鍵盤を離れた後も音が残ります。

11. BENDERスイッチ

しゃくするような効果が得られます。人声、口笛などの音色に効果的です。

12. VIBRATOスイッチ

ビブラート効果のオン/オフを行います。

13. DELAY VIB.スイッチ

打鍵後、時間をおいてビブラートがかかります。楽器を歌わせる場合に効果的です。

14. PORTAMENTOスイッチ

次の鍵盤に移るとき音の高さをなめらかに変化させるポルタメント効果のオン/オフを行います。

15. ARPスイッチ

鍵盤を連続で打鍵するのと同じ効果が得られます。同時に複数の鍵盤を押しているときはアルペジエーターとして機能します。

16. ARPEGGIATOR

MODE: アルペジエーターが演奏するパターンを選びます。

BPM SYNC: ONにすると、TEMPOコントローラーでのテンポやホスト・アプリケーションでのテンポ(プラグイン動作時)にアルペジエーターが同期します。

KEY SYNC: ONにすると、ノート・オンする度にアルペジエーターがリセットされます。

LATCH: ノート・オフにしてもアルペジエーターによる演奏を続けるかを設定します。

RANGE: アルペジエーターの演奏範囲を設定します。

SPEED: “TEMPO SYNC”ON時に、アルペジオ・パターンの分解能を設定します。

“TEMPO SYNC”ON時に、同期しているテンポに対して“BASE NOTE”で選んだ音符を“SPEED/TIMES”ノブで設定する“TIMES”の数だけ並べた長さを、アルペジエーターによるパターンの一周期として設定します。

“BPM SYNC”がオフのときは、アルペジエーターのパターン演奏のスピードを調節します。

17. VIBRATO

SPEEDスライダー: ビブラートの速さを調節します。中央で自然なビブラートが得られます。

DEPTHスライダー: ビブラートの深さを調節します。中央で自然なビブラートが得られます。

18. PORTAMENTOスライダー

自然なポルタメントから効果音までポルタメントの強さを幅広く調節できます。

19. PITCHスライダー

本体のマスター・チューニングを行います。中央でA=440Hzです。

トップ・パネル



VCO2

1. BALANCEスライダー

フロント・パネル側の音(VCO1)とトップ・パネル側の音(VCO2)のバランスを調節します。スライダー最小値ではフロント・パネルの音(VCO1)だけ、スライダー最大値ではトップ・パネルの音(VCO2)だけになります。

2. PITCHスライダー (COARSE、FINE)

COARSEスライダーはトップ・パネル側(VCO2)の音の高さを2オクターブにわたって可変できます。FINEスライダーは可変範囲が少なく、通常のチューニングに使用します。

3. VCO2モード・セレクター

フロント・パネル側(VCO1)に対するトップ・パネル側(VCO2)の重ね方を切り替えます。

DUET : フロント・パネル側の音(VCO1)とトップ・パネル側の音(VCO2)を足し合わせます。PITCHスライダーにより、ユニゾン、3度や5度など厚い音が得られます。

MODULATOR 1 : フロント・パネル側の音(VCO1)とトップ・パネル側の音(VCO2)を掛け合わせ、リング・モジュレーターの効果を得られます。チャイム、銅鑼、ガムランからSFXサウンドまで多彩な音が作れます。

MODULATOR 2 : MODULATOR 1とオクターブの異なるリング・モジュレーターです。

MODULATOR 3 : 鍵盤に追従せず、37の鍵盤から異なった音色、ランダムな音階を出すことができます。

NOISE 1 : 音階を持ったノイズ音です。単独でも使えるほか、フロント・パネル部の音に適度に混ぜることで多彩な音色が作れます。

NOISE 2 : 音階を持たないノイズ音です。トラベラーによって音色を変えられます。風、波、その他の効果音などが作れます。

4. EFFECTスイッチ

スイッチをオンにすると、トップ・パネル側の音(VCO2)がミックスされます。

5. SUSTAIN LONGスイッチ

スイッチをオンにすると、音色のアタック、パーカッション、サスティーンの時間が10倍になります。特殊効果などに使用します。

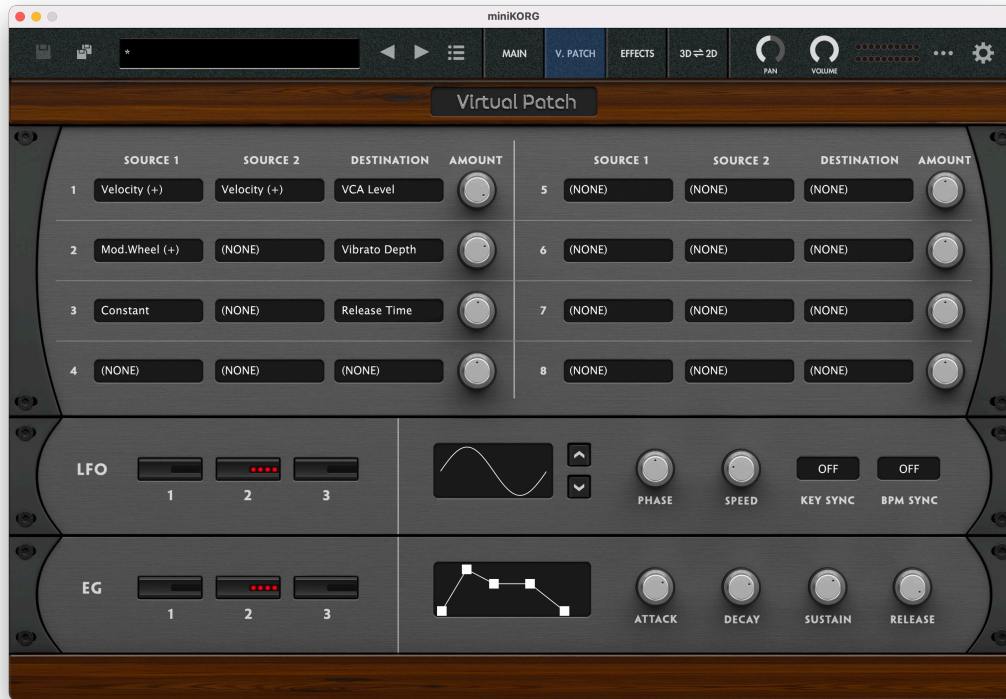
6. TRAVEL VIBRATOスイッチ

スイッチをオンにすると、トラベラー・コントロール・スライダーを手で左右に揺らすビブラートと同じ効果がかかります。

7. ジョイスティック

左右方向はピッチ・コントロール、前後方向はモジュレーション・コントロールが可能です。

V.PATCH



Virtual Patch

MG、EG、ペロシティ、キーボード・トラックなどのモジュレーション・ソースを、音色を構成する様々なパラメーターにアサインしモジュレーションをかけることができます。プログラムごとに8つのモジュレーションを設定することができます。

SOURCE1, SOURCE2

モジュレーション・ソースを選択します。(→32ページ「Modulation Source List」)

MIDI 1 ~ MIDI 4を選択したときは、MIDI コントロール・チェンジ・ナンバーをグローバル・パラメーターの“VIRTUAL PATCHCONTROL CHANGE”で設定します。

DESTINATION

“SOURCE”で選択したソースでモジュレーションをかけるパラメーターを選びます。

AMOUNT

モジュレーションの深さを設定します。

LFO

1/2/3

設定するLFOを選択します。

WAVE

LFO波形を選択します。

PHASE

LFOをリセットする際の位相を設定します。

SPEED

LFOの基準となるスピードを設定します。

KEY SYNC

ノート・オンしたボイスに対するLFOのかかり方を設定します。

Off: ノート・オンしてもLFOの位相はリセットされません。

Timbre: 何も鍵盤を押していない状態から、最初のノート・オンでLFOの位相がリセットされ、以後ノート・オンしたボイスに対してはリセットがかかりません。

Voice: ノート・オンごとにLFOの位相がリセットされ、個々のボイスに対し異なる位相でモジュレーションがかかります。

BPM SYNC

LFOの周期のテンポまたはMIDI クロックへの同期を設定します。

EG

1/2/3

設定するEGを選択します。

ATTACK

ノート・オンからアタック・レベルに到達するまでの時間を調節します。

DECAY

アタック・レベルに到達してからサステイン・レベルへ移行するまでの時間を調節します。

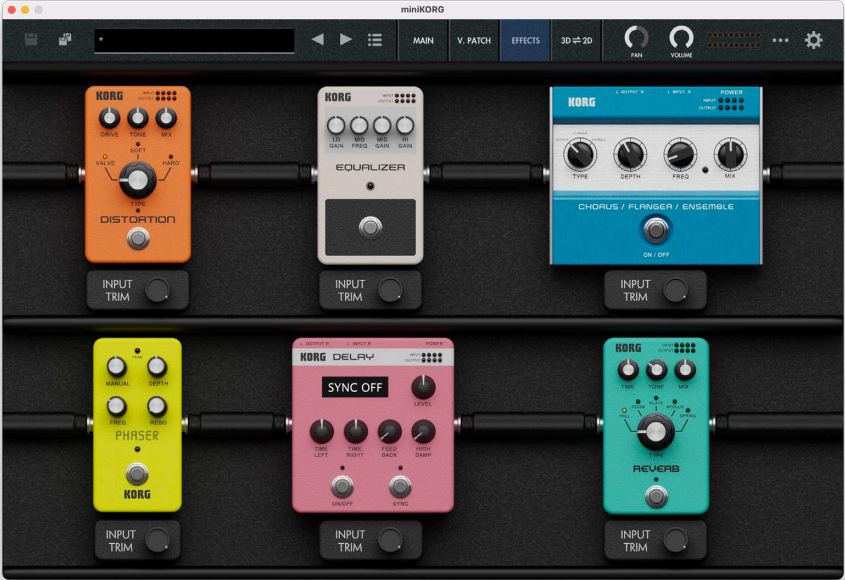
SUSTAIN

サステイン・レベルを調節します。

RELEASE

ノート・オフからレベルが0になるまでの時間を調節します。

EFFECT



DISTORTION

3タイプの歪みが選べるディストーション・エフェクトです。



ON/OFF

このエフェクトを使うときはONにします。

TYPE

エフェクトのタイプを設定します。

DRIVE

歪み回路の入力レベルを調節することで、歪みの効き具合を調節します。

TONE

音色を調節します。

MIX

エフェクト音とダイレクト音のミックス・レベルを調節します。

EQ

低音、中音、高音のレベルを増減します。



ON/OFF

このエフェクトを使うときはONにします。

LO GAIN

低音を調整します。

MID FREQ

中音域の周波数帯を設定します。

MID GAIN

中音を調整します。

HI GAIN

高音を調整します。

CHORUS/FLANGER/ENSEMBLE

音、ピッチを揺らした信号と、原音と混ぜ合わせることで音にうねりや広がり、ビブラート感を与えます。



ON/OFF

このエフェクトを使うときはONにします。

TYPE

エフェクトのタイプを設定します。

DEPTH

効果の深さを調節します。

FREQ

うねりのスピードを調節します。

MIX

エフェクト音とダイレクト音のミックス・レベルを調節します。

PHASER

位相を周期的に変化させた音を原音に混ぜ合わせることによって、音にうねりを与えます。



ON/OFF

このエフェクトを使うときはONにします。

MANUAL

効果のかかる周波数を調節します。

DEPTH

効果の深さを調節します。

FREQ

うねりのスピードを調節します。

RESONANCE

レゾナンス量を調節します。

DELAY

音を時間的に遅らせて聞こえるようにするエフェクトです。



ON/OFF

このエフェクトを使うときはONにします。

TEMPO SYNC

ディレイ・タイムをテンポに同期させるかどうかをオン、オフで設定します。

TIME LEFT

左チャンネルのディレイ・タイムを調節します。

TIME RIGHT

右チャンネルのディレイ・タイムを調節します。

FEED BACK

フィードバック量を調節します。

HIGH DAMP

高音域の減衰量を調節します。

LEVEL

エフェクト音のレベルを調節します。

REVERB

反響音を加えて残響や臨場感をシミュレートします。



ON/OFF

このエフェクトを使うときはONにします。

TIME

残響の時間を調節します。

TONE

リバーブ音の明るさを調節します。

MIX

エフェクト音とダイレクト音のミックス・レベルを調節します。

TYPE

エフェクトのタイプを設定します。

3D⇔2D

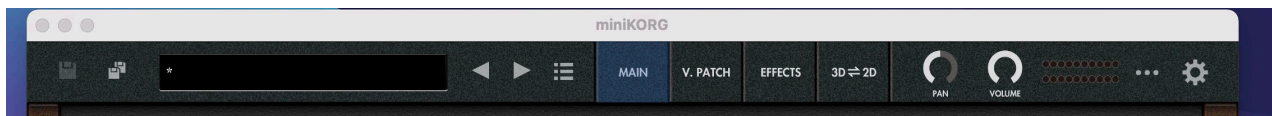
パネルの表示を平面表示に切り替えます。



TOP Panel


3D2Dボタンを押すごとに、3D表示と2D表示を切り替えることができます。
2Dに切り替えると、MAINのパラメーターがまとめて拡大表示されます。

ツール



SAVEボタン, SAVE AS...ボタン

プログラムを保存するときに使用します。

: SAVEボタンを押すと、現在選択中のプログラムに上書きします。

: SAVE ASボタンを押すと、新しいプログラムとして保存します。

・・・(Hamburger)メニュー

プログラムの初期化やコントローラー設定の呼び出し、保存などを行います。

Initialize

現在選ばれているプログラムを初期化します。

Copy miniKORG Program

現在選ばれているプログラムの設定をクリップ・ボードにコピーします。

Paste miniKORG Program

コピーしたプログラムの設定を、現在選ばれているプログラムにペーストします。

Load Controller Map...

コンピューターにセーブされているコントローラーの設定をロードします。

Save Controller Map...

コントローラーのアサイン設定をコンピューターにセーブします。

Show/Hide Controller Assign

各スライダーやスイッチに設定されているCC#ナンバーの表示/非表示を切り替えます。

Make Current Controller Map Default

現在の各スライダーやスイッチに割り当てたCC#ナンバーのアサイン設定を、起動したときのデフォルト設定として保存します。

Save Current Global Settings As Default

Globalページの設定を起動したときのデフォルト設定として保存します。保存した設定は、次回起動時から有効になります。

Screen Size

スクリーンのサイズを変更します。変更した設定は次回起動時も保持されます。

Manual

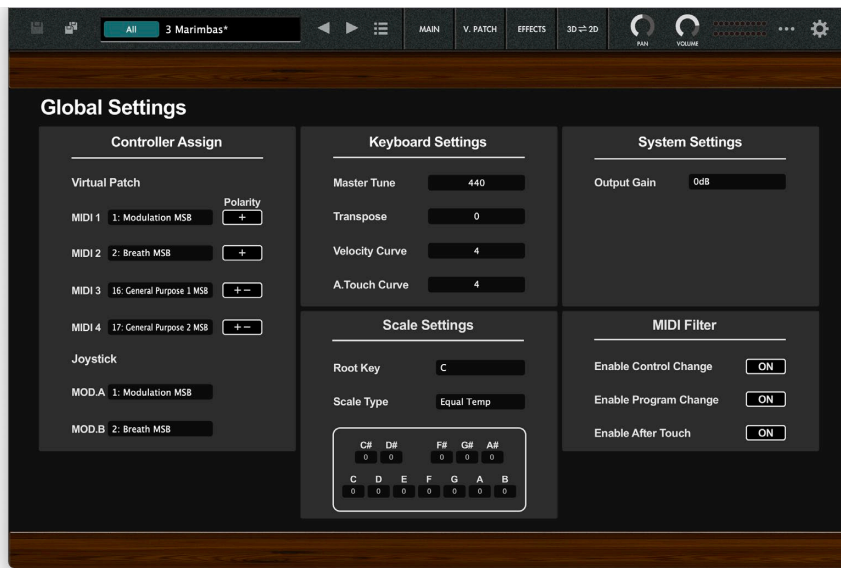
ソフトウェアまたはオリジナル・ハードウェアの説明書を表示します。

About miniKORG

ソフトウェアのバージョン情報を表示します。

⚙️(グローバル)ボタン

コントローラーのアサイン設定やスケール設定、鍵盤の設定などを行います。



Controller Assign

Virtual Patch

バーチャル・パッチのモジュレーション・ソースMIDI 1 ~ MIDI 4で使用するMIDIコントロール・チェンジ・メッセージを選択します。V.PATCHページの“SOURCE 1”、“SOURCE 2”でMIDI 1 ~ MIDI 4を選択すると、ここで設定したMIDIコントロール・チェンジ・メッセージ(CC#)がモジュレーション・ソースとして使用されます。

Joystick

コントローラーで制御するMIDIコントロール・チェンジ・メッセージを選択します。

Keyboard Settings

Master Tune

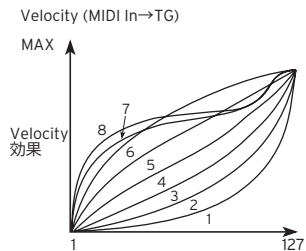
発音する全体のピッチを1Hz(ヘルツ)単位で設定します。440Hz(A4:ラの音)基準ピッチになります。

Transpose

発音する全体のピッチを半音単位(100セント)で設定します。設定範囲は±2オクターブです。

Velocity Curve

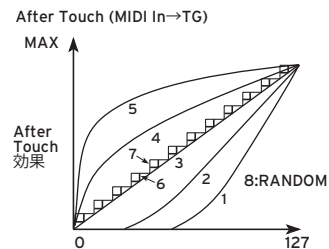
ベロシティの強弱による音量や音色が変化する度合いを設定します。受信したベロシティに対し、ベロシティ効果が、下図のように変化します。全体的に音色が明るすぎたり、暗すぎたりするときは、ここで適切なベロシティ・カーブを選んでください。



TIP 4(Normal): 標準的なカーブです。

A. Touch Curve

アフタータッチの強弱による音量や音色が変化する度合いを設定します。受信したアフタータッチに対し、効果が、下図のように変化します。



TIP 4(Normal): 標準的なカーブです。

Scale Settings

Root Key

“Scale Type”で選んだ音階の主調和音キーを設定します。

Scale Type

スケール・タイプ(音階)を設定します。12類のスケール・タイプから選びます。

Equal Temp: 一般的に広く使われている音律で、各半音のピッチの変化幅が同じになっています(平均律)。

Equal Temp Random: ノート・オンするたびに平均律に対しランダムにピッチをずらして発音します。

Pure Major: 選択した主調和音のメジャー・コードが完全に調和する音階です(純正律長音階)。

Pure Minor: 選択した主調和音のマイナー・コードが完全に調和する音階です(純正律短音階)。

User1 ~ 12: “User Scale”で設定した音階になります。作成した12個のユーザー・スケールから選択します。

User Scale

ユーザー・スケールを設定します。“Scale Type”でUser1 ~ 12を選び、ここで1オクターブ内のピッチを設定します。設定は自動的にセーブされ、“Scale Type”でユーザー・スケールを選ぶことによって、いつでも設定を呼び出すことができます。

1 オクターブ(C ~ B)内のピッチを-99 ~ +99セントの範囲で調整します。平均率が基準ピッチ(0)になります。

+99にすると、基準ピッチよりもほぼ半音高くなります。-99にすると、基準ピッチよりもほぼ半音低くなります。

note “Scale Type”がEqual Temp、Equal Temp Random、Pure Major、Pure Minorのときは“User Scale”は設定できません。

System Settings

Output Gain

最終的な出力レベルを設定します。

MIDI Filter

ENABLE CONTROL CHANGE

MIDIコントロール・チェンジ・メッセージを受信するかどうかを設定します。

Off(チェックしない): 受信しない。

On(チェックする): 受信する。

ENABLE PROG CHANGE

コンピネーション・チェンジ、プログラム・チェンジを受信するかどうかを設定します。

Off(チェックしない): 受信しない。

On(チェックする): 受信する。

ENABLE AFTER TOUCH

アフタータッチを受信するかどうかを設定します。

Off(チェックしない): 受信しない。

On(チェックする): 受信する。

Modulation Source List

(None)
Constant
Velocity (+)
Velocity (+-)
Kbd Track (+)
Kbd Track (+-)
After Touch (+)
After Touch (+-)
PitchBend
Mod.Wheel (+)
Mod.Wheel (+-)
MIDI1
MIDI2
MIDI3
MIDI4
Vibrato (+)
Vibrato (+-)
EG (+)
EG (+-)
Joystick Mod.A
Joystick Mod.B
Ext.LFO1 (+)
Ext.LFO1 (+-)
Ext.LFO2 (+)
Ext.LFO2 (+-)
Ext.LFO3 (+)
Ext.LFO3 (+-)
Ext.EG1 (+)
Ext.EG1 (+-)
Ext.EG2 (+)
Ext.EG2 (+-)
Ext.EG3 (+)
Ext.EG3 (+-)

付録

故障とお思いになる前に

故障とお思いになる前に、次の項目を確認してください。

音が出ない

- システム・メニュー [環境設定]→[オーディオの設定]と[MIDIの設定]が正しく設定されていますか？
- Master Level、音量に関するパラメーターが0になっていませんか？
- コンピューター側で音が出力される設定になっていますか？
Windowsの場合は、コントロールパネルの[サウンドとオーディオ デバイスのプロパティ]で確認してください。
macOSの場合は、[システム環境設定...]→[サウンド]と、アプリケーション・フォルダ→ユーティリティ・フォルダ→[Audio MIDI設定]→[オーディオ装置]を確認してください。
- コンピューターでサウンド・カードを使用している場合、サウンド・カードが正しく設定されていますか？
- コンピューターにオーディオ機器を接続している場合、オーディオ機器側が音の出る設定になっていますか？

音がとぎれる/ノイズが出る

使用されているコンピューターのCPUへの負荷が高い場合に、音切れやノイズが発生します。このような場合は、次のことを実行してみてください。

- 他のアプリケーションを起動している場合は、それを終了してください。
- 使用しているシンセサイザーの最大同時発音数を減らしてください。
- システム・メニュー [環境設定]→[オーディオの設定]で、オーディオのバッファ・サイズを大きくしてください。ただし、大きくしすぎると発音の反応が遅くなります(レイテンシーが大きくなります)。

音が遅れる

- レイテンシーは、サンプル数×バッファ数で決まります。システム・メニュー [環境設定]→[オーディオの設定]で、この数ができるだけ小さく、かつ安定して動作するように“Audio buffer size”と“Sample rate”を設定してください。

コンピューターに接続しているMIDIデバイスで コントロールできない

- コンピューターとMIDIデバイスは正しく接続されていますか？
- 接続したMIDIデバイスがコンピューターに認識されていますか？
Windowsの場合は、コントロールパネルの[サウンドとオーディオ デバイスのプロパティ]→[ハードウェア]で確認してください。
macOSの場合は、アプリケーション・フォルダ→ユーティリティ・フォルダ→[Audio MIDI設定]→の[MIDI装置]でMIDIデバイスが認識されているかを確認してください。
- システム・メニュー [環境設定]→[MIDIの設定]が正しく設定されていますか？

仕様

- 最大同時発音数：256音(コンピュータのCPUに依存)
- パート数：1
- プリセット：150種類以上
- エフェクト：6種類
- スタンドアローン動作、VST/AUプラグイン・インストールメント対応
- リアルタイムMIDIコントロール&オートメーション対応

動作環境

for Mac

- OS：macOS 10.13 High Sierra 以降(最新アップデート)
 - * 32bit 環境はサポートしていません。
- CPU：Intel Core i5以上(Core i7以上を推奨)
- メモリ：8GB RAM 以上(16GB RAM以上を推奨)
- ストレージ：8GB 以上の空き容量(SSDを推奨)
- その他：インターネット接続
- プラグイン：AU、VST、AAX (64bitプラグインのみ対応)

for Windows

- OS：Windows 10 64bit* 以降(最新アップデート)
 - * 32bit 環境はサポートしていません。
- CPU：Intel Core i5以上(Core i7以上を推奨)
- メモリ：8GB RAM以上(16GB RAM以上を推奨)
- ストレージ：8GB以上の空き容量(SSDを推奨)
- その他：インターネット接続
- プラグイン：VST、AAX (64bitプラグインのみ対応)

※ 仕様および外観は、改良のため予告無く変更することがあります。

サポート・サービスのご案内

ご連絡の際に必要な情報

ご連絡の際、以下の情報が必要になります。これらの情報が確認できない場合、サポート・サービスをご提供できませんので、必ずご提示ください。

- お名前
- 製品名とバージョン
- ご使用のデバイス名
- OSのバージョン
- ご質問内容(できるだけ詳細にお書きください)

ご連絡の前に

- ご連絡の前に、本マニュアルまたはKORG app Help Center (<https://support.korguser.net>)にご質問内容に対する回答がないかご確認ください。
- デバイスの基本的な操作方法、一般的な曲や音色の作成方法など、当社製品以外に関するご質問については、お答えできませんのであらかじめご了承ください。

お客様相談窓口

- webでのお問い合わせ: <https://support.korguser.net/hc/requests/new>
- Eメールでのお問い合わせ: techsupport@korg.co.jp
- 電話でのお問い合わせ



0570-666-569

一部の電話ではご利用になれません。固定電話または携帯電話からおかけください。

- 受付時間 月曜～金曜 10:00～17:00(祝日、窓口休業日を除く)
- 電話でのお問い合わせの際には、ご質問の製品が操作できる環境をご用意ください。
- ご質問の内容やお客様の使用環境によって生じる問題などについては、回答にお時間をいただく場合があります。あらかじめご了承ください。

KORG INC.

4015-2 Yanokuchi, Inagi-City, Tokyo 206-0812 JAPAN

© 2021 KORG INC.

Published 07/2021